

## 寶の持ちくされ

マの解禁に先立つて指導船と連絡會で(サシ)盛丸(百一十八尺)を十日かから漁場に派遣してサンマ群の回游状況を調査し解禁と同時に出港する本縣の各船に漁場に修理し十五日ころにならなければ小名瀬にかえらないので遂に業者待望のサンマ漁場調査は出来ないことになった。なお共盛丸は昨年行わなかつた電氣機関に今年は参加することになっている。

今度の爆合のように業者がもつとも切實に要望している漁場の情報を早くキヤウチして各船に一つの指針を與える役割を果せないため縣水産界から實の持ち腐れり的に取扱れている共盛丸は乗組員自体が歩合制であることを縣へ相當の収入をあげなければならぬことなどの状態のため、

市民税賦課割臨時市會

平市會は午前十時半より公會堂日本間に開き、委員會に附託した市民稅賦課について衆田特別委員長より「一部を修正したが總体としては原案通り支障する」と報告。これに對し江尻、長瀬、鈴木、酒井各議員より質問あり多數決を以つて可決、大野議員から水道並に平塙埠内豊道の促進について質問あつてのちあつさり閉會、直ちに協議會に入り商工會議所二千円以内を限度として、及び地方事務所の自動車購入に十万円を限度とする方針を採りた。市議諸君は「凡ての問題は市會の絶對文持によって實行してある」結果ではあるうがこれで建設途上にある明治都市の善政と言えるか、市長も市議諸君も夜靜かなるとき自分達のやつている政策が果して公僕的な公平にして市民の幸福のための方策であるか否かを考えて貰いたい。仄聞するに寄附行為は地力長官の許可をうけて行うといふことが二十一年まで規定され、いたそりであるが規定が抹消されたとか云つて市議諸君

科 研 究	
社会科の特殊性	学校に開催
保生4年生政治教育と政 界	十・石城地區社會
農業組合郡支部、 各組合の代表者、 農家資金専策協	下社科會擴散教 會は十、十一の期 間で参加で監督に開 催には
人	題を如何に取扱う
ソク増設によつて べきであり一方公 市が市の大きな財 産に當てよと宣 カムに當てよと宣 この方法にて行 めさから多くの 出位で立派な假市 のものが出来るので 人間離れたした や人間離れたした ある。	れており時節柄期 間に
この人がである 大勢によって如何 にしてその業を 深刻に考え、一 かを慮つている 十万円以上の膨大	四)で昨年の標 と七割(縣民税 加となつてゐる から組合員四十名が を實施してあつたが の出資實績は一百 倍を上廻る能率を 側の未拂賃金六、七 は(三十五万円)で で算出出来る状態を 從來の月平均九十八 から組合員四十名が を實施してあつたが の出資實績は一百 倍を上廻る能率を 側の未拂賃金六、七 は(三十五万円)で で算出出来る状態を 從來の月平均九十八 川町大字下楠屋室 翠中、ヨシナイ澤など 破片や矢の根など 更に地下二尺位の土 燒石を積み重ねた 方のものが現われ 根本氏は語る 本忠孝氏のかん定 ころ、石器時代の地 ことが判明した、そ 文化協會では若古國 跡ではなく、平野 ことは石器時代の な複算を計上し古市 ることによつて一回 んとすることを謳歌 つて過言ではない のよらな現われを確 「と仰去る、そこと 市議の大賛成の経緯 つて行つて、市 設と全市民の幸運 」と仰去る、そこと ゴマ辰と暦をされて の姿がはうふつと されるのである、由 ためには他人の迷惑 ないというガリく 思想は高利貸質貸 よく見られるところ 三ツ兒の魂とはよ のである

業務管理  
、八月中  
十四屯と  
屯台の二  
げ、會社  
の兩月分  
月七日  
までにさ  
子新井内開  
から土器の  
が破壊され  
ところから  
尺五寸四  
たので同村  
研究家根  
を尋ねたと  
発見されていますが大  
器時代中唐のものだ  
のです、然るにここか  
見の千頭破片を見ます  
磯式でありますから此  
初期の遺跡となる譯で  
何れこの點に就ては東  
人類學教室や慶大の考  
研究室に問合せを委し  
表は致します

死体八名荷不明  
遭難漁船  
引揚完了

★近店開理と御満氣分く・氣經樂燕平東寶新道通

小説  
文庫

行所電881-17  
平市田町48  
いわき民報社  
編集発行人田原  
刷

谷 下車 湯 の は  
資金運用を推進し、合理化に資するため、  
一時の収入が左の如く時金に非常  
に備えることを申し、△備元貯金(災厄  
るもの)△たすけ(△おひこ)

業經營の供出時に定期△貯蓄貯金の十二月に分割して對處することに農業組合に常時の監査と合わせたがこの中肥料、農機等に備えたがる。耕作、家畜、買物、醸造等にして内容を區分するが他の行金も

種に  
なつ  
具、  
はの  
して  
いた  
延) 九月十四日午後七時より(一)  
賃付素人のど自  
飯野八幡

他 余興

夏井村農業協同組合

